



特別展
とき

刻を描く 田淵俊夫

4月18日～5月30日

4月18日(日)
記念対談

田淵俊夫氏 日本画家

神谷浩 × 当館副館長兼学芸部長

展覧会概要

日本画家・田淵俊夫（1941～）は、日本絵画に伝統的な装飾性と精神性を高いレベルで両立させている稀有な存在です。雑草を見て命のたくましさを感じ、日常の営みの中に悠久の時間を感じるという田淵の芸術の根幹は、15年にわたる愛知県立芸術大学在籍時代の活動を通じて急速に確立されていきました。かずかずの受賞を重ね、画壇の重鎮となった今も、日本画のポテンシャルの高さに気付かせてくれる作品を生み出し続けています。

日本美術の長い伝統を受け継ぐ画家であり、当地域と浅からぬ縁のあることから、豊かな日本美術コレクションを有する徳川美術館で開催することとなりました。新作を含め、画家自薦による作品を紹介いたします。

展覧会基本情報

- ◆展覧会名 特別展 刻を描く 田淵俊夫
- ◆会場 徳川美術館 本館展示室
- ◆会期 2021年4月18日(日)～5月30日(日)
- ◆開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ◆休館日 月曜日(但し、5月3日(月・祝)～5日(水・祝)は開館、6日(木)は休館)
- ◆観覧料 一般1,400円 高・大生700円 小・中生500円
※蓬左文庫展示室にて同時期開催の企画展「うるわしき花と鳥」と共通
※20名様以上の団体は一般1,200円 高・大生600円 小・中生400円
※毎週土曜日は高校生以下無料
- ◆作品数 50点
- ◆主催 徳川美術館 / 名古屋市蓬左文庫 / 中日新聞社 / 日本経済新聞社
- ◆協力 名古屋市交通局

プレス内覧会および開会式

2021年4月17日(土)

プレス内覧会：午後1時30分～3時 受付：午後1時15分 会場：徳川美術館講堂

午後1時30分 同時期開催企画展「うるわしき花と鳥」解説 / 当館学芸員 安藤香織
特別展「刻を描く 田淵俊夫」解説 / 当館副館長兼学芸部長 神谷浩
午後2時～3時 各展示室にて自由取材

開会式：午後3時～3時30分 会場：徳川美術館 玄関ホール

テープカット参列予定者 日本画家 田淵俊夫氏
徳川美術館 館長 徳川義崇
名古屋市蓬左文庫 文庫長 橘弘子氏
中日新聞社 名古屋本社 事業局長 尾久充弘氏
日本経済新聞社 名古屋支社代表 稲宮豊明氏

以上5名予定

田淵芸術のルーツ

第1章 水と光

田淵は、水面にきらめく光、木漏れ日、照りつける陽光など、光とその輝きにはとりわけ敏感であった。最初の本格的な作品もここから始まっており、折に触れて描き続けてきた水と光をテーマにした作品を紹介する。



青木ヶ原 1969年 / 愛知県美術館蔵

写真フィルムのような光の効果、大胆な余白の活用、限定的な色数、輪郭線と彩色のズレなど、田淵芸術の転換点に位置する重要作品である。

戦火の中で見つけた命

第2章 草と花

大学院修了後、内戦の続くナイジェリアで強く印象づけられたのは、雑草のたくましい姿と命の連鎖であった。田淵芸術の大きな柱である草や花などの植物を描く作品を紹介する。



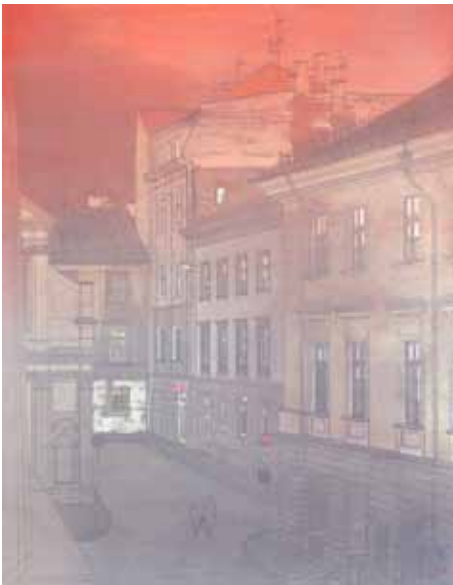
やまはぜの頃 1974年 / 大三島美術館蔵

やまはぜは春から夏にかけての成長期には独特の嫌な臭いがするが、秋には美しく紅葉する。その変身ぶりに、植物の命の不思議さを感じとるのが田淵なのである。

悠久の時間を描く

第3章 旅と刻

「刻」(へとき)は田淵の中での大きなテーマである。田園風景を見て、戦国時代にそこを駆けめぐった兵士を思い浮かべ、街中で満月を見れば昔の人と同じ月を見ていると感ずるのが田淵であり、旅先で見かけた何気ない景にも時間性を感じるのである。一瞬の景に内包される悠久の時間を描き出す作品を紹介する。



旅の窓から裏窓 1999年 / 大三島美術館蔵

ポーランドの都市クラクフの夕景。かつて收容所があった場所というイメージが重ねられ、寂しく描き出される。



大地悠久 オアシスの月 2004年 / 個人蔵

敦煌の街並みと満月を機上から見た景。飛行場に近くなってほんの瞬間窓から見えた日暮れの景を元にしながら、印象的な画面をつくり上げた。

田淵芸術の本質

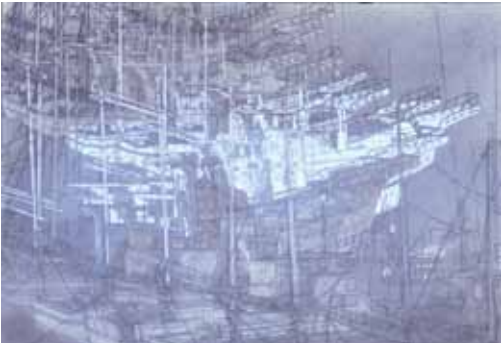
第4章 人の刻

田淵作品の時間性（「刻」）のさらに奥にあるもの、それは人である。電線やビルハウスなど、普通は描かれぬ人工物であつてもそこに人の営みを認めて描き出すのが田淵である。日常の営みのなかに、人やそれを含む万物の命のきらめきを感じ取り印象的に表現された作品を紹介する。



清晨 1980年 / 個人蔵

晨は早朝のこと。田淵の作品には、ごく普通の家が描かれることに注目したい。そこからは、その家の人々の幸せな日常生活に寄せる思いが感じられる。



泊 1998年 / 個人蔵

田淵が非常に感動を覚えたという伊豆半島の稲取港で停泊する漁船の群れ。独特の優しく美しい線が交錯し、強さを見せる瞬間である。

挑戦と普遍。その混合の美

第5章 命と光 田淵俊夫の今

暗い心象表現に始まり、装飾的な画面を多く手がけ、水墨表現に挑戦し、さらに絵巻物にも取り組み始めている。このように、作品の見た目は変化しているが、質的な部分の基本は、水・光・命・時である。しかもそれらの要素が複雑に組み合わさってさらなる魅力を放つようになってきている。最新の田淵芸術のありようの魅力を紹介する。



めだけ 2007年 / 個人蔵

「吹き抜けるような緑の風を、墨一色でどう表現できるのか、一種の挑戦でした」と田淵は語る。墨の濃淡の使い分けがさらに繊細となっており、高い完成度を示す。



鶴岡八幡宮絵巻 卷一 / 鶴岡八幡宮蔵

はじめての絵巻物作品。鶴岡八幡宮の歴史を描くにあたって、場面の選択や図柄の決定はすべて田淵自身によるもの。第一巻は源頼朝が鎌倉に入るところから火災で鎌倉の街並みが消失するところまでを描く。

期間限定特別出品 **悠紀地方風俗歌屏風** / 宮内庁蔵 4月18日(日)～5月9日(日)

※広報画像提供不可

新天皇の即位儀礼の最後にあたる大嘗祭のために献納された作品。通常よりも大きな画面に、悠紀地方に選ばれた栃木県各地の四季の姿が描かれる。画面の青い線は、大和絵の伝統的な霞の描き方で、この作品に求められる古典的な性格を理解してのことである。そんな中で目をひくのは、両隻に見られる宅急便とおぼしき自動車と、農作業の軽トラック。これらは、豊かな大地と豊かな自然に囲まれた人々の営みを象徴する重要なモチーフなのだ。謹厳さの中にも、人を見つめる温かな視線を忍ばせることを田淵は決して忘れてはいないのである。

◆作家来館記念対談「刻を描く」

作家 田淵俊夫氏 × 当館副館長兼学芸部長 神谷 浩



日 時：2021年4月18日（日）午後1時30分～3時（開場：午後1時）
会 場：徳川美術館 講堂
定 員：事前申込のうえ、抽選で60名（募集は終了しています）
料 金：無料（入館料別途要）

◆担当学芸員の見どころガイド

日 時：2021年5月1日（土）午後1時～1時30分（開場：12時30分）
会 場：徳川美術館 講堂
定 員：当日先着60名
料 金：無料（入館料別途要）

◆徳川美術館・メナード美術館相互割引 田淵俊夫と日本画の世界 美をつなぐ

メナード美術館「田淵俊夫と日本画の世界」の観覧券（入館済み可）を当館のチケット売り場でご提示いただくと、入館料が団体料金（一般1,200円/高・大生600円/小・中生400円）となります。

期 間：2021年4月18日（日）～7月11日（日）1枚につき1名適用

視聴者・読者プレゼント提供

特別展「刻を描く 田淵俊夫」を、ぜひ御社媒体にてご紹介ください。
画像を1点以上使用してご紹介いただいた場合、視聴者・読者プレゼントとして本展覧会のご招待チケット（非売品）を、1媒体5組10名様にご提供いたします。

本券で同時期開催の企画展「うるわしき花と鳥」もご覧いただけます。

お問い合わせ

取材は随時お受けいたします



〒461-0023 名古屋市東区徳川町1017
TEL：052-935-6262（10時～17時受付）
052-935-8222（営業時間外受付）
FAX：052-935-6261

[報道関係対応窓口] 徳川美術館 管理部

吉川 由紀 yuki@tokugawa.or.jp

竹内 大知 d.takeuchi@tokugawa.or.jp



特別展 ^{とき} 刻を描く 田淵俊夫

広報画像申請書 使用期間：～2021年5月30日



No.1
旅の窓から 刻
2002年
紙本着彩
個人蔵



No.2
やまはぜの頃
1974年
紙本着彩
大三島美術館蔵



No.3
大地悠久 オアシスの月
2004年
紙本着彩
個人蔵



No.4
泊
1998年
紙本着彩
個人蔵



No.5
めだけ
2007年
四曲一隻屏風 / 紙本墨画
個人蔵



No.6
鶴岡八幡宮縁起絵巻 巻一
2011年
一巻 / 紙本着彩
鶴岡八幡宮蔵

使用媒体

放送日・発売日

プレゼント提供 希望する ・ 希望しない

貴社名

ご担当者様

データ送付先アドレス

ご連絡先電話番号

[ご利用にあたっての注意事項]

- ・画像のご利用は本展覧会の紹介用途のみに限ります。
- ・部分アップのトリミング、色変更等の加工はご遠慮ください。
- ・二次利用不可です。
- ・画像には最低限「タイトル」と「所蔵」のクレジットを明記してください。
- ・内容確認のための校正原稿をお送りください。
- ・ご掲載誌、DVD等を1部「徳川美術館 管理部 広報宛」でお送りください。



〒461-0023 名古屋市東区徳川町 1017

TEL: 052-935-6262 (10時～17時受付)

052-935-8222 (営業時間外受付)

FAX: 052-935-6261

担当: 吉川 yuki@tokugawa.or.jp

竹内 d.takeuchi@tokugawa.or.jp